

WS 5	政治学は戦後民主主義にどう向き合ったか			オンライン併用
	【定員】30名 【受講料】 2年・1年会員ともに14,300円 聴講生15,730円			
	『政治・経済・社会』【ワークショップ】政治・社会		【時間】 毎回15時00分～17時00分（計10回）	
概要	第2次世界大戦の敗戦から始まった戦後民主主義の流れを振り返り、それぞれの時代の課題と政治学（者）がそれにどう向き合ったかを明らかにする。それを通して、戦後民主主義の定着と変容に関する知識人の役割について考察する。			
回	月/日(曜)	会 場	学 習 内 容	講師名(敬称略)
1	4/12 (水)	川崎市 生涯学習 プラザ	戦後民主主義はいかに始まったか	法政大学教授 山口 二郎
2	4/19 (水)		戦後政治体制をめぐる知識人の戦い 憲法と安全保障	
3	4/26 (水)		1960年安保をめぐる論争と戦後政治体制の安定化	
4	5/10 (水)		高度成長と大衆社会の民主主義 松下圭一	
5	5/24 (水)		市民の政治学をめぐる 高島通敏と篠原一	
6	5/31 (水)		保守回帰の政治学 佐藤誠三郎の役割	
7	6/14 (水)		自民党政治の爛熟をどう見るか	
8	6/21 (水)		冷戦終焉と憲法論議の転回	
9	7/5 (水)		政権交代と政治学 1	
10	7/12 (水)		政権交代と政治学 2	
連絡 事項	WSは、報告とディスカッションで進めます。テキストについては、初回時に、皆さまとご相談します。参考文献：丸山眞男『政治の世界』岩波文庫、松下圭一『戦後政治の歴史と思想』ちくま学芸文庫、坂野潤治『日本近代史』ちくま新書、山口二郎『政権交代論』岩波新書など。			